あっという間に美しい色

フォトラマ

FUJI INSTANT CAMERA & FILM

きれいに写すための撮影ガイドブック

シャッターを押したその場で、美しい写真が楽しめるのが、フジインスタント写真「フォトラマ」。
楽しいインスタント写真をより美しく写すための、大切な撮影のポイントを紹介いたします。いつもきれいな写真を写すために、このガイドブックをあなたのそばに置いて、ご活用ください。

明るい所でも、ストロボを使ってより美しく写しましょう。

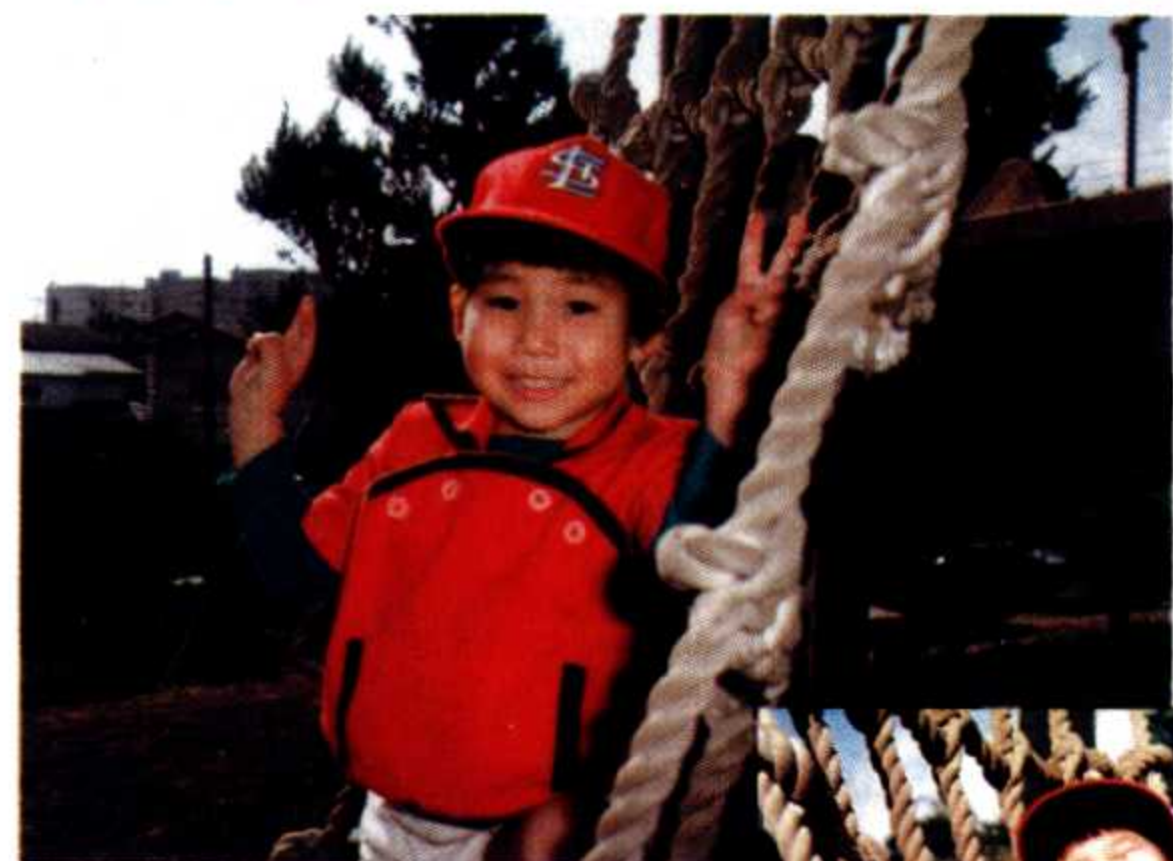
「フォトラマ」は、ストロボ撮影がいつでも手軽に楽しめます。夜間・室内はもちろん、明るい所でも補助光としてストロボを活用してください。

ストロボ発光OKランプの確認をお忘れなく。
ストロボスイッチをONにして、ストロボ発光OKランプが点滅していることを確認してからストロボ撮影をはじめてください。

木陰や逆光などの時には、日中でも気軽にストロボ撮影を。

暗い木陰でもストロボ撮影をすれば、カゲがなくなり、こんなに表情がイキイキと写せます。

木陰にいる人物をそのまま写すと、木の葉のカゲが顔にかかって、暗くなってしまいます。

太陽がまぶしく感じる時は、太陽をななめ後にしてストロボ撮影を。

写したい人物の顔に太陽の光が直接あたると、まぶしくて目が開けられない、というようなことがあります。太陽がななめ後にくるようにして、ストロボ撮影をすれば、目はぱっちりと！

そのまま写すと、太陽の光がまぶしすぎて、不自然な表情に写ってしまいます。

2人以上を写す時は、カメラから等距離にならぶように。

2人以上の人物をストロボ撮影する時は、カメラからそれぞれの人物が同じ距離になるように。光が均等にあたって、きれいに写せます。

カメラからの距離がかわってくると、ストロボの光が均等にあたらず、遠くにいる人はこのように暗く写ってしまいます。

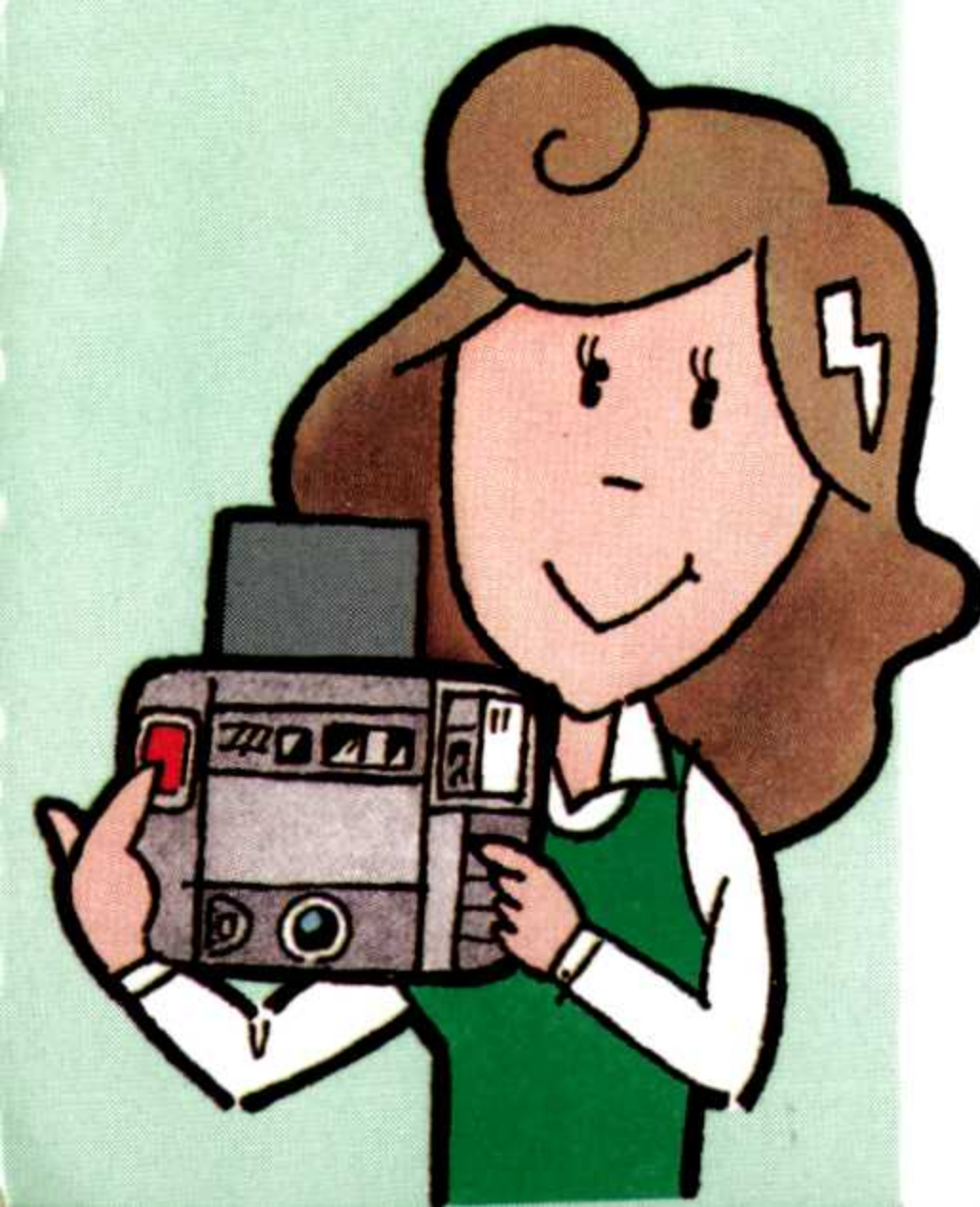
- F-60AFで撮影する場合、左の写真のように2人の間があいてしまう時は、フォーカスメモリーをご使用ください。

光を強く反射させるものには、写す角度をひと工夫して。

バックに鏡やガラスなど、光を反射させるものがある時は、少し斜めから写すなど、反射光が直接カメラに入らないように工夫しましょう。

ま正面から写すと、ストロボの反射光により画面にキズのような点ができます。

カメラをタテにして写す時は、ストロボの位置を上にして。

カメラをタテにして写す時は、ストロボがカメラの上側にくるようにしてください。そうすればバックの黒いカゲが目立たず、表情も美しく写せます。

撮影条件に合わせて、濃淡コントロールを上手に使いましょう。

「フォトラマ」には、写真の濃淡をコントロールするツマミが付いています。通常はまん中にセット、次の様な場合はツマミで上手にコントロールしてください。

自然光で撮影の時は、
カメラの濃淡コントロールで…
EE濃淡コントロールつまみは、1目盛が½絞りに相当します。

ストロボ撮影の時は、
ストロボ濃淡コントロールで…
ストロボ濃淡コントロールつまみは、1目盛が⅔絞りに相当します。

写真が白っぽい時には、ツマミを「DARKEN・濃」側に。

被写体が白っぽく写った時にはツマミを「DARKEN・濃」側にセットしてください。こんなにきれいに写せます。

写真が暗い感じの時には、ツマミを「LIGHTEN・淡」側に。

被写体が暗い感じで写った時には、ツマミを「LIGHTEN・淡」側にセットしてください。鮮やかに写せます。

バックが被写体より極端に暗い時は、ツマミを「DARKEN・濃」側に。

被写体よりバックが極端に暗い時には、あらかじめツマミを「DARKEN・濃」側にセットして写してください。こんなにきれいに写せます。

暗いバックで明るい被写体をそのまま写すと、被写体が白っぽく写ることがあります。

バックが被写体より明るい時は、ツマミを「LIGHTEN・淡」側に。

被写体よりバックの方が明るい時には、あらかじめツマミを「LIGHTEN・淡」側にセットしてください。こんなにイキイキと写せます。

明るいバックで暗い被写体をそのまま写すと、被写体が暗い感じで写ることがあります。

太陽の光を上手に使って、イキイキとした表情をとらえましょう。

被写体に、光が均一にあたるように。

被写体に光がまんべんなくあたるようにしてください。ホラッ、こんなに明るく、美しい写真が写せます。また、明るい所でもストロボを補助光として使うことをおすすめします。

屋根や樹木などの影が画面の中に入ってくると、暗い感じの写真になってしまいます。

イキイキした表情はできるだけアップで。

写す時は、できるだけ被写体に近づくように心がけましょう。イキイキとした写真が楽しめます。笑顔も、こんなにこぼれるばかりに！

遠くから写すと、このようにおとなしい写真になって、特に人物の表情が伝わってきません。

美しい仕上がりのために、こんなことを心がけましょう。

写す構えは正しく。レンズやストロボに指がかからないように。

レンズやストロボ発光部に指などがかかったりすると暗く写ってしまいます。また、EE受光窓に指がかかると淡く(白っぽく)写ってしまいます。

シャッターは、静かに、しっかりと。

シャッターを強く押すと手ブレをおこし、ボケた写真になってしまいます。また、ストロボを使わず暗い所でシャッターを押す時は、三脚を使用して完全にシャッターが切れるまでシャッターボタンから指を離さないようにしましょう。写真がまっ黒になることがあります。

ストロボ撮影時には、ストロボ発光OKランプの点滅の確認を。

ストロボが充電されていないうちにシャッターを押すと、ストロボは発光せず暗い写真になることがあります。

カメラから写真を取り出す時には、端の方を持って。

送り出されたばかりの写真の画面を指でつまんだりすると、その部分だけ赤紫っぽくムラになることがあります。また、折り曲げたりすると細い縞模様になることがあります。

取り出した写真は、熱いものの近くに置かないように。

カメラから出てきたばかりの写真を熱い砂の上やコンクリート、ストーブの近くなどに置くと暗い写真になってしまいます。

特に気温の低い所では、取り出した写真をすぐに暖めて。

気温の低い所では、写真が淡い感じになってしまうことがあります。カメラをあらかじめ室内などの暖い所に置いておくか、またはカメラから出てきた写真をただちにポケットの中などで暖めてください。

屋外だけでなく、室内でも気温の低い時もありますので気をつけましょう。

常日頃からカメラはきれいに。

レンズやローラーが汚れていると、ボケたり、ムラになった写真になってしまいます。

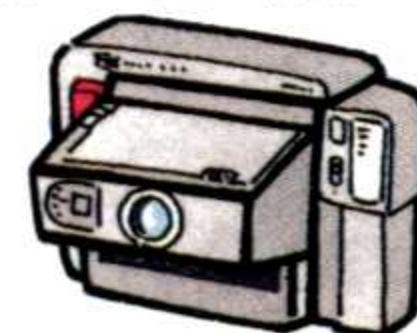
フィルムパックの装てんは確実に。撮影中のフィルムカウンターチェックもお忘れなく。

装てんが不充分だとフィルムが引っかかり出てこなくなります。その時は、暗い所で一番上のフィルムを外してもう一度装てんしなおしてください。1～2枚空写しをすればあとのフィルムは大丈夫です。また、フィルムがなくなると写真は出てきません。フィルムカウンターでフィルムの有無を確認してください。シャッターの押し方が不充分の時も写真は出てきません。

フィルムの使用は、お早目に。

カメラに装てんしたフィルムは、できるだけ早目に撮るようにしてください。
また、未使用のフィルムも有効期限内に使うことをお忘れなく。

フィルムの入ったカメラは、涼しく、乾燥した場所に。

カメラにフィルムパックを入れたら、涼しく、乾燥した場所に保管してください。また、砂浜や閉めきった車の中など、カメラを温度の高い所へ置いておくと、故障の原因となることがありますのでご注意ください。

美しい写真は、"30秒間の温度"が大切です。

より美しい写真は、カメラからフィルムが送り出された後の"30秒間の温度"がとても大切です。適温は、15℃～40℃の間です。
特に温度の低い所では、カメラから出てきた写真をただちにポケットに入れるなどして暖めてください。

フジインスタントカメラには、フジインスタントカラーフィルムをお使いください。

FUJI INSTANT COLOR FILM FI-10

あっというまに美しい色

フォトラマ

FUJI INSTANT CAMERA & FILM

きれいに写すための撮影ガイドブック

インスタント写真からの焼き増しができる

フォトラマプリント

フォトラマは、焼き増しや引伸しができないのでは…と、心配される方がいらっしゃいます。大丈夫です。美しい仕上りで定評あるフォトラマプリントで、焼き増し、引伸しともに簡単にできます。

フォトラマプリントには、Lサイズ(89×124mm) 2Lサイズ(127×175mm)の2種類があります。

お近くの写真店で"フォトラマプリント"とご用命ください。

富士写真フイルム株式会社
東京都港区西麻布2-26-30 〒106

宣宣−82・10−CA・70−1(MW)

インスタント写真からの焼き増しができる

フォトラマは、焼き増しや引伸しができないのでは…と、心配される方がいらっしゃいます。大丈夫です。美しい仕上りで定評あるフォトラマプリントで、焼き増し、引伸しともに簡単にできます。

フォトラマプリントには、Lサイズ(89×124mm)2Lサイズ(127×175mm)の2種類があります。

お近くの写真店で"フォトラマプリント"とご用命ください。

富士写真フイルム株式会社
東京都港区西麻布2-26-30 〒106

宣宣－82・10－CA・70－1(MW)